

.NET Architecture Forum

デベロッパーのための オーケストレーション 完全ガイド

第3回

BizTalk Server 2004の実力やいかに？

溝端 二三雄 MIZOBATA, Fumio

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
BizTalk Server

Level

Samples

・本稿で取り上げたサンプルおよび、関連ドキュメント『BizTalk Server自習書（デベロッパーのためのオーケストレーション完全ガイド）』は、
<http://www.microsoft.com/japan/BizTalk/Orchestration/learning/>
より入手できます。



Jupiter 登場！

2003年6月にDallasで開催された、Tech・Ed 2003において、BizTalk Serverの次期バージョンのベータ版が参加者に配布されました。今回からは、BizTalk オーケストレーションを、この次期バージョンをベースにして解説します。無償評価版はマイクロソフトのWebサイトより申し込み可能です。開発コード Jupiterと呼ばれていたこの次期バージョンの正式な製品名は未定ですが、現在は「BizTalk Server 2004」と呼ばれています。

BizTalk Server 2004で何が変わったか？

BizTalk Server 2004での変更点を一言で表現すると、「すべてが変わりました」と言えるでしょう。BizTalk Server 2000からBizTalk Server 2002へのアップグレードとはまったく比べ物にならない変化があります。アーキテクチャの

変更、数多くの追加機能、Windows Server SystemやOffice Systemさらには、Visual Studio .NETとのより密接な統合など、これらの変化はまさに「進化」と呼ぶにふさわしいものになっていると言えるでしょう。

しかし、製品の裏装面で大きな進化がある一方、製品の活用方法に関しては、まったくと言っていいほど変化はありません。つまり、企業アプリケーションのビジネスロジックを実行する、オーケストレーションサービスを提供するのがBizTalk Serverであることに変わりはないわけです。

では、早速、BizTalk Server 2004の進化を紹介しましょう。

Visual Studio .NET 2003でオーケストレーション

はじめに体験する変化は、「BizTalk オーケストレーションデザイナー」「BizTalk エディタ」「BizTalk マッパー」の Visual Studio .NET 2003との統合でしょう（もちろん、製品のインストールプ

ロセスも変わっていますが)、このため、BizTalk Server 2004をインストールするには、Visual Studio .NET 2003が必要となります。

これまでのBizTalk Serverでは、ビジネスプロセスの開発にBizTalkオーケストレーションデザイナーという専用の開発ツールが提供されていたわけですが、ビジネスプロセスだけを開発するデベロッパーは少なく、ほとんどの場合、ビジネスプロセスを実現する各ステップ(コンポーネント)も開発することになります。また、各コンポーネントとデータ(メッセージ)のやり取りを行なう場合、スキーマの定義や変換が必要になる場合があります。そのためにBizTalkエディタやBizTalkマッパーという専用ツールがありました。

しかし、同じデベロッパーが、それぞれの開発コンポーネントごとに異なる開発ツールを使用するよりも、統合されたひとつの開発ツールを使用したほうが、ツールの使用方法の習得や実際の開発作業が効率化されることは容易に想像が付きまします。BizTalk Server 2004では、まず、この点を実現されました。

BizTalk Server 2004をインストールすると、Visual Studio .NET 2003の「新しいプロジェクト」画面にプロジェクトの種類として「BizTalk Projects」が追加され、テンプレートとして「Empty BizTalk Server Project」が選択できます(図1)。

新しく作成された、BizTalkプロジェクトに[新しい項目の追加]を行なうと(図2)、これまでそれぞれ専用のツ

ルを使用して作成していた表1のBizTalkオーケストレーションの機能が、すべてこのVisual Studio .NET 2003プロジェクトで開発できます。

BizTalkエディタ(図3)やBizTalkマッパー(図4)に関しては、以前のツールを使用した経験があれば、問題なく使いこなすことができるでしょう。また、使用経験のない方であっても、BizTalk Server 2004に付属のヘルプドキュ

図1: BizTalkプロジェクトの新規作成

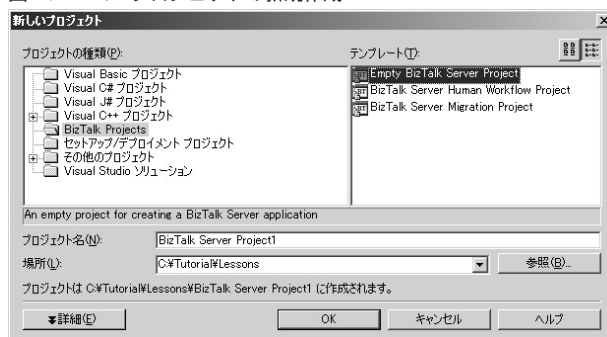
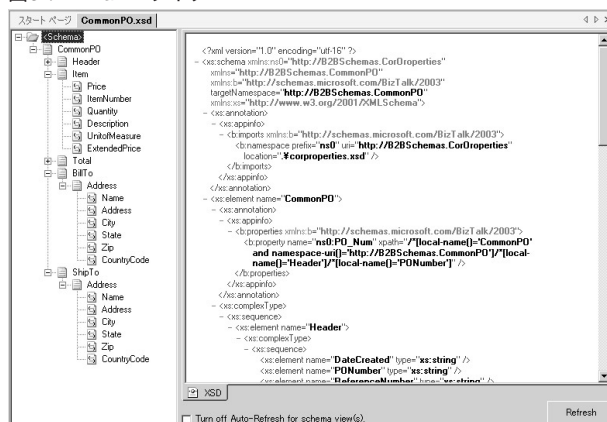


図2: BizTalkプロジェクト内のテンプレート



図3: BizTalkエディタ



開発はすべて Visual Studio .NET 2003

これまでのBizTalk Serverを用いたアプリケーション開発では、BizTalkエディタ、BizTalkマッパー、BizTalkオーケストレーションデザイナーを使用しました。また、コンポーネントは、Visual Studio .NETを使用しました。これらがすべてVisual Studio .NET 2003に統合され、デベロッパーは使い慣れたVisual Studio .NET 2003だけを使用すれば、開発ができます。しかし、統合によるメリットはこれだけではありません。ビルド、配置、さらには.NET Frameworkやコンポーネントの参照、Webサービスの利用などにおいても一貫した操作性を提供します。この点は次回以降も詳しく解説します。